

製品名: LMX1B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13365**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	LMX1B
別名	LMX1B; LIM homeobox transcription factor 1-beta; LIM/homeobox protein 1.2; LMX-1.2; LIM/homeobox protein LMX1B
遺伝子 ID	4010.0
SwissProt ID	O60663
免疫原	抗血清はヒト LMX1B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 126-175

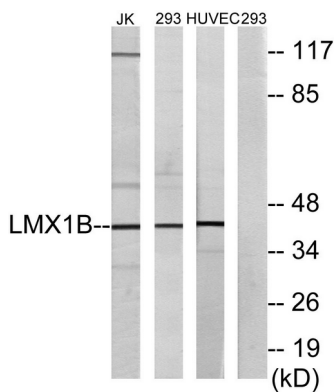
背景

LIM ホメオボックス転写因子 1 β (LMX1B) Homo sapiens この遺伝子は、2つの N 末端亜鉛結合 LIM ドメイン、1つのホメオドメ

イン、およびC末端グルタミンリッチドメインを含むLIMホメオドメインファミリーのタンパク質をコードしています。転写因子として機能し、四肢背部構造、糸球体基底膜、眼の前部、およびドーパミン作動性ニューロンとセロトニン作動性ニューロンの正常な発達に不可欠です。この遺伝子の変異は、爪膝蓋骨症候群（NPS）と関連しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2010年3月]、疾患：LMX1Bの欠陥は、爪膝蓋骨症候群（NPS）[MIM:161200]の原因です。爪骨形成異常症としても知られています。NPSは、骨格パターンの異常と腎形成異常を引き起こす疾患です。機能：背肢形成（zeugopodal）と自肢形成（autopodal）の両方において、四肢背側の運命決定に必須です。類似性：ホメオボックスDNA結合ドメインを1つ含みます。類似性：LIM亜鉛結合ドメインを1つ含みます。類似性：LIM亜鉛結合ドメインを2つ含みます。組織特異性：ほとんどの組織で発現します。精巣、甲状腺、十二指腸、骨格筋、膵島で最も多く発現します。

研究分野

画像データ



LMX1B抗体を用いたJurkat細胞、293細胞、およびHUVEC細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。